

音楽芸能スタッフ科 PAコース
2年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習Ⅱ（前期）	34	2	1
実習	分野別実習Ⅱ（後期）	34	2	1
講義	一般教養Ⅱ	68	2	4
講義	音楽史Ⅱ	68	2	4
講義	舞台知識Ⅱ	68	2	4
講義	PC知識Ⅱ	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識Ⅱ	68	2	4
実習	サウンドアナライズⅡ	68	2	2
実習	イクイップメントⅡ	68	2	2
演習	スタッフワーク基礎Ⅱ	68	2	4
演習	スタッフワーク応用Ⅱ	68	2	4
実習	PA基礎Ⅱ	68	2	2
実習	PA応用Ⅱ	68	2	2
講義	業界知識Ⅱ	72	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①学生と社会人の違いを知り、社会人として必要なビジネスの基礎を中心にコミュニケーション力、ビジネスマナー、日本のしきたりを学ぶ。 ②具体的にはビジネスマナーの基本である第一印象、あいさつ、みだしなみ、態度、ことばづかい、話し方・聞き方、ビジネス文書、来客対応、仕事の進め方、食事のマナー、日本のしきたりまで学習する。 ③就職活動に必要な、自己PR作成や立ち居振舞いを実践し面接試験をクリアできる基本を学ぶ。</p>					
到達目標					
<p>・就職後に役立つビジネスマナーや社会人として求められる能力を習得することにより、社会人になるにあたっての意識の向上と基本的な心構えをもつことができ、組織にとって必要な人材になることができるようになる。 ・対人関係においてコミュニケーションを向上し、円滑な人間関係を築くための基礎を身につけることができる。 ・ビジネスマナーと接遇の基本の考え方を理解し、体得することによって実務能力を実践的に使えるようになる。就職活動方法及び面接・筆記試験対策を実践形式で行い、就職内定を最終目標とする。</p>					

対策	
【前期】 1～3回目	自己紹介:対策と解説
【前期】 4～7回目	マナー基本編の復習と応用編(ステップupマナー)
【前期】 8～10回目	マナーの実技編とアドバイス
【前期】 11～13回目	コミュニケーションの復習(話し方・聞き方・表情・態度)・実技編
【前期】 14～17回目	前期試験:マナー・コミュニケーションのレポート提出と実技の実施
【後期】 18～20回目	就活の為のマナー編(面接時における対応・入室・座・退室)
【後期】 21～24回目	質問に対する返答への対策
【後期】 25～27回目	社会人としての仕事への取り組み方
【後期】 28～30回目	仕事をして行く中で マナー・ルールが相手の立場を考え仕事を円滑に運んだり、トラブルを未然に防いだりする事の必要性
【後期】 31～34回目	後期試験:自己アピール(プレゼン)と好感の持てる社会人とは レポート提出
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	会社のしくみを学び、仕事の基本を知ることはいくらから社会に出るみなさんにとって大きな自信につながります。「企業は人なり」と言われるように社員のちょっとした言葉や行動が会社の印象に関わるからこそビジネスマナーが大切です。あらゆるビジネスシーンで求められる接遇力をしっかり習得します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響・録音技術史		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要	音響・録音についての技術や機器、背景などの歴史を学習する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・録音史について基礎的な知識を得る。 ・技術の変遷を理解し、現代でも使われている技術や機器について理解を深める。 ・音とはなんなのかに注目し、歴史のなかでそれがどの様に捉えられてきたかを学ぶ。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	アナログとデジタルについて 蓄音機誕生について
【前期】 4～7回目	円盤式蓄音機について 電気録音とラジオについて
【前期】 8～10回目	LPとEP、ステレオについて アナログ・オーディオ全盛期について
【前期】 11～13回目	磁気録音の歴史 前期のおさらい、応用的な内容の学習
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施
【後期】 18～20回目	前期のおさらい デジタル録音、CDIについて
【後期】 21～24回目	MDの誕生 DATの開発について
【後期】 25～27回目	DVDの誕生 ステレオからサラウンドへ
【後期】 28～30回目	SA-CD、DSDIについて デジタルオーディオがもたらしたもの
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	PAやレコーディング、ミキシングの職において重要な歴史の知識を身につけましょう。テキストに添いつつ解説を挟みながら行います。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。NUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしサウンドアナライズについての講義を行う。				
授業概要					
アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴や演奏方法などを学び、幅広い知識を身につける。また、会場の形や広さ、温度や湿度による音の違いなどについても分析する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みや奏法を学び、幅広い知識を身につける。 ・楽器について幅広く学ぶと同時に、それぞれの楽器の音が出る仕組みや奏法を覚え、簡単な演奏が出来る技術を習得する。 ・楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称と様々なセッティング。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 4～7回目	打楽器/ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 8～10回目	弦楽器/ギターの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 11～13回目	弦楽器/ベースの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 14～17回目	前期のまとめ ■前期試験:各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 18～20回目	鍵盤楽器/アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 21～24回目	鍵盤楽器/デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 25～27回目	管楽器/木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 28～30回目	民族楽器/打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 31～34回目	年度のまとめ ■後期試験:前期と合わせて楽器の歴史や仕組み等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、楽器全般を知ることとはとても重要なことのひとつです。授業を通してより多くの楽器について学びましょう。また新しい音楽と共に、日々進化を続け、新製品が開発される楽器の世界です。常に新しい情報を入手する姿勢も大切です。
備考	無し(必要に応じてテキスト配布やデータの共有を行います。)

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	この講義では、PAに特化したソフトウェアの概要と応用的な使いかたを学ぶ。				
到達目標	<p>・DAWソフトを理解することで、PAとRECでの違いを知り、状況に応じたRec、Mixを行うことができる。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	DAWソフトの内部を理解する。PAとRECの違いを理解する。チャンネルの構成、ルーティング、出力をできるようになる。
【前期】 4～7回目	音源を指定された長さに編集する、短くする、長くする、複数トラックを1つの曲として書き出すことができる。
【前期】 8～10回目	音源素材を使用して、DAW内のプラグインエフェクトを使用し、プラグインエフェクト種類、効果を理解し簡易的なミックスを行う。
【前期】 11～13回目	DAWを音源叩きとして使用するためのルーティング、編集する。実際に声を収録し、波形編集、Mixを行う。
【前期】 14～17回目	■前期試験: ラジオ公開収録音源を使用して、不必要な波形の処理、マイクの音声のMix、複数トラックを2Mixに書き出し納品音源化する。
【後期】 18～20回目	様々な種類のオーディオインターフェースの違いを学ぶ。Dante Virtual Soundcardの使用方法を学ぶ。
【後期】 21～24回目	Dante Virtual Soundcardの使用方法を学ぶ。LiveRecされた音源とStudioRecされた音源の違いを理解し、それぞれのMixのアプローチを考える。
【後期】 25～27回目	YAMAHAのミキサーでDante Virtual Soundcardを使用しバンドのマルチRecを行う、その音源をDAW上で編集Mix作業をする。
【後期】 28～30回目	■後期試験: 実際に収録した音源を編集Mixしたものを納品音源化する。
【後期】 31～34回目	バンドRec素材を使用しフルバンドのミックスをプラグインを駆使して行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / PC操作」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現代PAを行う中でPCを駆使できることは仕事を大きく助けてくれます。最低限の知識でも、動画の音声処理等他業種に派生したりも出来ます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識Ⅱ		授業形態 / 必選	講義	選択
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	屋内外、ライブハウスイベントなどの様々な現場で、音響スタッフ・及びオペレーターとして活躍。なお現場の電気及び電源知識の習得する。また、大型イベント・博覧会舞台監督、進行チーフを担当。イベントの企画制作・進行・タレントブッキング・マネージメント・進行台本作成・企画書作成・プレゼン・音響プラン作成、プロドラマー・ドラム講師・D.T.M楽曲制作・作詞・作曲等様々な経験と知識・技術を活かし各方面で活躍中。				
授業概要	屋外現場の音楽・芸能・舞踏その他における、音響知識と応用。華やかな演者の表舞台を裏から支えるスタッフの重要性を学。				
到達目標	その時々現場関係者・スタッフとの円滑なコミュニケーションがとれる様、社会人としての常識を含め、日頃から積極的な挨拶・所作を基本に安全第一に、どんな状況でも冷静に行動できる様に、現場に必要な基本知識を身に付け、現場に強いスタッフの育成を目指します。現場経験の積み重ねから成長していく為の大切な知識習得の重要性を理解し、多種多様な現場でも通用するフレキシブルなスタッフの育成を目指します。				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	現場音響知識①電源の取り方・電源ボックス 4/15・5/13・5/20
【前期】 4～6回目	現場音響知識②キャブタイヤ・電源引き回し 5/27・6/3・6/10・
【前期】 7～9回目	現場音響知識③ジェネレーター 6/17・6/24・7/1
【前期】 10～12回目	現場音響知識④スライダック・テスター・7/8・7/15・8/26 前期試験
【前期】 13～17回目	現場音響知識⑤ 前期まとめ 9/9・9/16・9/30
【後期】 18～20回目	1年・2年の総合復習 10/7・10/14・10/21・10/28
【後期】 21～24回目	1年・2年の総合復習 11/4・11/11・11/18・11/25
【後期】 25～27回目	模擬試験 模擬現場におけるスピーカープラン・雨対策、漏電対策プラン 12/2・12/9・12/16
【後期】 28～30回目	模擬試験 現場対応術 1/13・1/20 後期試験
【後期】 31～34回目	PAマンの適正と対策 2/3・2/10・2/17・2/24
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	学ぶ事は、前に進む為の行動です。現場は、場数で培われます。経験を重ねて行く為には、しっかりと基礎を学んでいく事が最重要です。頑張らしましょう。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要	<p>①チェストボイス、ミックスボイス、ヘッドボイスやファルセットなどの歌声、アコースティックギター、エレキギター、ベース、ドラム及びキーボードなど様々な「音」を分析し、それぞれの性質及び特徴を理解するとともに音響エンジニアとして必要な応用知識を身につける。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歌声の種類を理解する。 ・楽器の特性を理解し、シチュエーションによって使い分けられる音の違いを分析する。 ・DAWソフトを使用して、視覚的、聴覚的に理解度を深める。 ・それぞれの音の性質や特徴を理解することができる。 ・ジャンルやシチュエーションによって使い分けられる音のEQ処理技術を身につけることができる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	授業概要と年間スケジュールの説明。歌声に関する分析、解説。
【前期】 4～7回目	アコースティックギターに関する音の分析、解説。
【前期】 8～10回目	エレキギターに関する音の分析、解説。
【前期】 11～13回目	ベースギターに関する音の分析、解説。
【前期】 14～17回目	■前期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 21～24回目	ドラムに関する音の分析、解説。
【後期】 25～27回目	鍵盤楽器に関する音の分析、解説。
【後期】 28～30回目	その他の楽器に関する音の解説。
【後期】 31～34回目	■後期試験：筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	歌声や楽器の特性を理解することで、シチュエーションに適した音作りをすることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響システムⅡ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	イクイップメントⅡ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスや音響会社に長年在籍の後、現在はフリーランスとして福岡を拠点とするアーティストや劇団の専属PAを担当する他、様々なイベントにおいてステージ進行の業務に従事。 上記の経験を活かしPAIにおける仕込みからバラシまでの実技指導を行う。				
授業概要	<p>○デジタルでの接続、仕組みの把握とパソコンでの操作、チューニング。 ○デジタルミキサーに内蔵されている特殊なエフェクターの操作 ○ワイヤレスマイクの周波数調整と管理。</p>				
到達目標	<p>デジタルをメインとしたシステムの接続とパソコンを使っでの管理、調整を学び一歩進んだ音響システムの技術を身に着けましょう。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	デジタルミキサーに内蔵されているエフェクターやデジタルI/Oの仕組みと操作方法
【前期】 4～7回目	デジタル音響機器にパソコンを繋げての操作
【前期】 8～10回目	メインスピーカー以外でディレイスピーカーやインフィルスピーカーなど様々な音響システムでの調整について
【前期】 11～13回目	パソコンで波形を見ながらのスピーカーの調整
【前期】 14～17回目	前期の復習と前期試験
【後期】 18～20回目	前期の復習とパソコンで波形を見ながらのスピーカーの調整の続き。
【後期】 21～24回目	ワイヤレスマイクの周波数の調整とパソコンをリンクしての操作方法
【後期】 25～27回目	デジタルミキサーを使っでの同録
【後期】 28～30回目	ファイナルウィークにむけてのシステムプランの作成
【後期】 31～34回目	後期試験。ファイナルウィークにむけてのシステムプランの作成
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	小規模～大規模なイベント、さまざまな状況に対応できるよう基本をしっかりと学びます。実際の現場は基本の応用ですので臨機応変に対応できるようしっかりと学習します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【前期】 11～13回目	前期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタッフワーク応用Ⅱ		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	スタッフワーク応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	福岡のライブハウスで長年、PA、アーティストブッキングや施設管理業務を担当。自身のライブハウスを問わず、様々な会場やアーティストのコンサートにおいてPAエンジニアとして従事。管理業務、店舗への音響設備などの業務も行なっている。また、自身がギターを担当しているバンドでは福岡を中心に精力的に活動中。上記の経験を活かし音響知識に関する講義を行う。				
授業概要					
<p>①音響、照明、ローディー、イベント制作のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、ステージセッティング、楽器調整、サウンドチェック、リハーサル、本番や撤収などのスタッフとして必要な実技能力を養う。</p> <p>②現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につける。</p>					
到達目標					
<p>・授業を通じてイベントや野外フェスなどの概要を深く理解し、仕込みから本番までの動きを習得する。</p> <p>・スタッフ同士の連携や、他のセクションの動きなどコミュニケーションや、アーティストとの信頼関係を築き、円滑に作業ができるように各セクションの専門的技術及び知識を身につける。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	前期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【前期】 4～7回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【前期】 8～10回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【前期】 11～13回目	前期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【前期】 14～17回目	■前期試験：実技試験及び前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	後期授業における内容について、イベント制作コースを中心に企画会議を行い、それぞれの企画に対し、PAとしてどのように対応するか、どのような事が出来るか考え、提案する。
【後期】 21～24回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシを通してPAの役割を学ぶ。
【後期】 25～27回目	出来上がったプランに対し、必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)他学科との合同授業における仕込み・リハーサル・本番・バラシ。
【後期】 28～30回目	後期LIVE WEEKにおける必要なものを検討・準備する(マイクセッティング、デジタル卓によるPAオペレート)仕込み・模擬リハーサル・模擬本番・バラシ。
【後期】 31～34回目	■後期試験：実技試験及び後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解/コミュニケーション」の4項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	他のスタッフと連携し仕込みから本番までを想定した流れの中で、搬入、ステージセッティング、楽器調整や撤収などの音楽スタッフとして必要な実技能力を養います。また、現場で想定されるトラブル対応なども実践する事で、臨機応変に対応できる能力と経験を身につけます。
備考	適時プリント資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート基礎Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA基礎Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
<p>①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々合ったセッティングを実践する。</p> <p>②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用してのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。 ・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。 ・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。 ・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さも難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用してのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PAオペレート応用Ⅱ		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	PA応用Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 ■	非該当 □
担当講師 実務経歴	福岡の音響会社に在籍の後、現在はフリーランスとして九州を中心に大型音楽フェスやアーティストのコンサートにPAスタッフとして従事。 上記の経験を活かしPAオペレーションを中心とした実技指導を行う。				
授業概要					
①ライブホールEMYに於けるデジタル音響システムの理解と適切な使用方法を学び、その時々に応じたセッティングを実践する。 ②デジタルミキサー(YAMAHA CL5・DiGiCo SD7)の使い方・ラインアレイスピーカー(VTX V20 S25)・モニタースピーカー(STX812・VTX M20)の特性を学び、ライブホールでの音作り・チューニングを理解します。その他、様々なマイクロフォンを使用し各特性を学んでいく。※基礎で学んだ内容をもとに2コマ目として実施					
到達目標					
・デジタルミキサー(DiGiCo SD7・YAMAHA CL5)を使用してのハウスオペレート・モニターオペレートができるよう、各ミキサーの特徴・セットアップ方法の違い、ステージボックス(SD RACK・Rio)のセッティングが出来るよう学んでいく。 ・ラインアレイスピーカー・2-wayステージモニターの特徴を理解し、各スピーカーに対応したセットアップ・チューニングができるように学ぶ。 ・実際のアーティストを交えてのFOH ConsoleをCL5・Monitor ConsoleをQL1(序盤)→FOH ConsoleをSD7・Monitor ConsoleをCL5(中盤～終盤)にて実習を行い、仕込み・チューニング・音作りの基礎を習得する。 ・各々がどのポジションに就いても適切な対応、指示が出来るよう色々なシチュエーションを想定・実施し対応力をつける。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ライブホールの音響システムの電源の入れ方・順番。 FOH・Monitorの分岐の説明/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。
【前期】 4～7回目	チーム分け/FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング。 iPadを使った回線チェック・チューニング/アーティストを入れての実習①
【前期】 8～10回目	FOH Console CL5・Monitor Console QL1での仕込み～セッティング/アーティストを入れての実習②
【前期】 11～13回目	SD7のインプットパッチ・アウトプットパッチ・HA・AUXの説明。
【前期】 14～17回目	■前期試験:FOH Console CL5・Monitor Console QL1を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
【後期】 18～20回目	SD7のセッションストラクチャー・Snapshot・GEQインサート。
【後期】 21～24回目	SD7のfxインサート・マトリクス送り・Comp・Gateの説明。
【後期】 25～27回目	FOH Console SD7・Monitor Console CL5での仕込み～セッティング～チューニング/アーティストを入れての実習①～②
【後期】 28～30回目	SD7のPinknoise・REC送りの説明。 チームを分けてのセッティング。
【後期】 31～34回目	■後期試験:FOH Console SD7・Monitor Console CL5を使用してのセットアップ・ハウスチューニング・モニターチューニングを適切に行えるか。決められた時間内にセットアップが適切に完了するかの実技試験。 時間内に適切なセットアップができたところを100点とし、そこからの減点方式。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	アナログミキサーからデジタルミキサーへの移行による、1年生で学んだ事の応用が増えてきます。便利さも難しさもありますが、新しく触れる機材と楽しく学び、様々なミキサーを使用してのハウスオペレーション・モニターオペレーション及び各ステージでの的確なセッティングを目指します。
備考	適時プリント資料配布

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンドⅡ		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識Ⅱ	年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
著作物の定義や著作権者の権利及び著作隣接権について学び、それぞれの権利がどのような働きをしているのかを理解することが出来る。					
到達目標					
音楽ビジネスの仕組みを知り、著作権にまつわる企業や団体がどのような役割を果たしているかを理解し、印税の仕組みや金額、著作権保護の条件や重要性についての理解を深める。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	形のない知的財産について理解し、著作権を守る意義について理解する。 著作物の定義と著作物の種類を理解する 著作権者の権利の内容を理解する 著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ①
【前期】 4～7回目	著作権者の権利の支分権と内容を結びつけることが出来る ② 著作隣接権の内容について理解する ① 著作隣接権の内容について理解する ② 音源の権利 原盤について理解する
【前期】 8～10回目	DVD視聴NHKスペシャル「知は誰のものか」インターネットにおける違法コピーと著作権の保護期間延長について 前回のDVDからの問題点のまとめ 著作権保護期間延長に関する作文 【作文提出】 音楽業界の基本構造① プロダクションの役割を理解する
【前期】 11～13回目	音楽業界の基本構造② レコード会社の役割を理解する 音楽業界の基本構造③ 音楽出版社の役割を理解する～著作権ビジネスの流れを理解する 音楽ビジネスの現状
【前期】 14～17回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 前期テスト実施 前期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
【後期】 18～20回目	JASRACの役割について理解を深める 著作権管理事業の現状 JASRACの使用料徴収の是非について自分の意見をまとめ 【作文作成&提出】
【後期】 21～24回目	印税の仕組みがどのようにになっているか理解出来るようになる レーベルの収益について理解することができる。 リクープラインについて理解することができる。 CD以外の著作権使用料① インタラクティブ配信
【後期】 25～27回目	CD以外の著作権使用料② 動画投稿サイト CD以外の著作権使用料③ 放送～カラオケ CD以外の著作権使用料④ 演奏/上演とレンタル 私的録音補償金
【後期】 28～30回目	著作物の利用に関して 著作物の利用手続きと所有権と著作権の違いを理解する 著作物の自由利用の範囲について理解を深める 著作権侵害の行為と罰則について理解を深める
【後期】 31～34回目	テスト対策 ここまでのポイントをまとめたプリント 後期テスト実施 後期テストの内容を振り返り、修正ポイントを確認し改善することができる。
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	前期では著作権の基本的な知識と音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割について学びます。 後期では主にJASRACの役割と印税について学びます。 JASRACに関しては、インターネット上で不確かな情報が飛び交っているのが現状ですが、自身で正しい判断が出来るような知識を身につけてください。 仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を上げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。